

「概説」に寄せられた意見・要望

- ここ150年の歴史、特に新しい時代の歴史に重点を置きながら、けれども北海道のかなり古い時期からの最近の研究成果を取り入れて、「北海道民が今北海道のことを振り返る時にはこの本を読む」というようなものを作るのが望ましい。(第1回有識者懇談会)
- これまで北海道が編さんした3種類の北海道史には、1冊目に必ず「概説」があるが、この位置づけがあまり明確でなく通史の単なる要約に留まっているように見える。この点を明確にして、内容的に意味のある「概説」の編さんに取り組んでもらいたい。(第2回有識者懇談会)
- 道内の考古・歴史系7団体からの北海道史の全面的見直しの要望を、どのようにしたら編さん事業の中に生かせるか改めて検討してほしい。例えば、「概説」の充実という方法が考えられる。(第2回有識者懇談会)
- できれば、「概説 北海道史」の英語版を作成して発信してほしい。他県と違った、北海道史を生かしていく重要な意義深い発信になると思う。(第2回有識者懇談会)
- 「概説 北海道史」については、通史の単なる要約ではなく、学術的な最新の成果も入れて、一般道民も親しめるようなものとのことだが、非常に難しい仕事になるのではないか。(第2回有識者懇談会)
- 資料収集を行って作る「現代史」と、先史時代からの北海道史全体について、新しい研究成果を踏まえて捉え直す「概説」。概説というと薄味のイメージだが、今回はむしろ多くの道民に新しい北海道史を見てもらうものと受け止めた。(第2回有識者懇談会)
- 「概説 北海道史」を作るのはかなり難しいと思うが、アイヌの問題一つ取っても新聞連載の中に「新北海道史」以上の内容の話が出てきており、避けられない必要なもの。(第2回有識者懇談会)
- 「概説 北海道史」では、1997年の拓銀破綻とその後の北海道経済への影響や、堀道政の評価なども取り上げて欲しいので、単純に2000年で区切らず、糊しろのある構成をお願いしたい。(第2回有識者懇談会)
- 自分達の北海道の歴史を振り返る意味で、概説がどのような形になるのか、一道民としては楽しみだが、作業としては非常に難しいと感じる。(第2回有識者懇談会)
- もし様々な可能性があるとしたら、是非トピック型をベースにして英語版の作成をお願いしたい。(第3回有識者懇談会)
- 先史以降のところはかなり研究が進み、新しい研究成果を取り入れなければならないという話をしてきたが、図録型では最新の研究成果を入れるのに難しそうな気がする。通史型にして、新しい成果を取り入れるのが順当なやり方ではないか。トピック型でもできるのかもしれないが、私の感覚としては通史型になる。(第3回有識者懇談会)
- 概説書という言い方では、現代史の要約みたいに捉えられがちなので、違う言葉で表現した方がよいのではないか。(第3回有識者懇談会)
- 通史型の場合はなんとかなると思うが、そうでない場合には、専門の方に一緒に入っても

らってレイアウトを考えることが必要ではないか。(第3回有識者懇談会)

- 戦後を中心とするようだが、前回の道史以降の研究成果についても整理し、先史から戦前の記載も多くしてほしい。古い道史が手元にあるとは限らないので、重複があったとしても北海道の歴史全般がわかるものにしてもらいたい。それが「道民に親しまれるもの」につながる。(パブリックコメント)
- 編さんの中心に「現代史」がおかれていることに寂しさを禁じ得ない。この40年間の研究成果による各時代の歴史像の塗り替えを「概説」ですませることには無理・困難を予想する。「最新の研究成果を盛り込み、高度な学術研究の水準を保つ」ことを堅持し、「本道の学術・文化の振興に寄与する」ためには、1000頁を超えるボリュームが必要。この「概説」とは別に、北海道史のエキスを中心とする、中学・高校生にも理解できるようなヴィジュアルな啓蒙的な意味での「概説」を作成した方が、よりクリエイティブ。「最新の研究成果を取り入れ、高度な学術研究の水準を保つ」と「平易な表現と写真や図版の多用により、道民が親しみやすいものとする」という二つを両立させることは不可能に近く、中途半端な内容に終わる。(パブリックコメント)
- 「概説」では女性史分野として、考古(恵庭カリンバ遺跡の縄文時代後期・約3000年前の女性シャーマンの登場など)、幕末の女性、近・現代すなわち明治以降の北海道女性史など。戦後の北海道の現代史(女性の参政権など)全般に反映していただきたい。研究書も多くある。「概説」には写真・図版の多用を望む。(パブリックコメント)
- 現況の北海道の景観には、歴史的な文脈とか気候・風土など様々な文化が反映されているが、若い人たちがそれを景観から読み取れるのか心配している。(概説の事例として)「目で見る北海道の歴史」というのがあるが、年代順、産業別、あるいは場所ごとにでも、目に見える北海道の景観史のようなものを作ったらどうか。また若い人はまず視覚情報に刺激を受けるので、写真や映像を使った北海道史の方が若い人たちに北海道史に関心をもってもらいきっかけになる。これまでの歴史的な文脈を景観史の観点から見直した「目で見る北海道史」ができるとうれしい。(第1回北海道史編さん委員会)